

事業概況

毎年、利用者の身体状況、認知症の重度化が進行する状況ですが、より利用者の身体・精神状況の把握に努め、最大限個人の尊厳を保持するサービスの提供を目指しました。

今年から2か年事業として、瀬戸の里20床の増築と大規模改修工事に着手しました。新棟を本年度、老朽化に伴う既存棟の全面改築を次年度という工程となります。空前の大規模な工事ですが、適時のライフラインの確保など利用者の皆様への影響を最小限に抑えるため工事業者等とも連携を密にし推進した結果、大きなトラブルもなく無事に本年度を終了することができました。

職員の研修については、全国・県老人福祉協議会の研修ならびに東濃支部の研修に参加してきました。看護師と介護職によるケア連携協働の研修も継続し、無資格の職員には外部講習による資格を取得するなど、今後も利用者の安全確保を重視して行きます。

身体拘束の問題は身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束廃止に向けて施設内での対策会議を行い、職員一丸となって取り組んでまいりました。

防災対策では防災設備の整備をはかるとともに、消防 防災計画により防災訓練をおこない、消防団 地域住民の協力のなかで夜間の防災訓練を実施し、利用者の生命と財産の保護に万全を期してきました。

感染対策ではインフルエンザ ノロウイルス その他感染症対策として定期的に感染症研修を行っています。面会者には年間を通し玄関前にて手指消毒とマスクをお願いし、毎日の施設内消毒も実施しています。職員は消毒スプレーを携帯し常に予防に努めていましたが、今年度はレジオネラ菌による感染症が発生し利用者、家族のを含め大変ご迷惑をおかけしました。

また、今年度からEPAによる介護福祉士候補生2名の受入や収支状況改善のための介護保険加算取得・保険外収入の確保等、新たな課題にも取り組みを開始しました。

今年度も引き続き歌・音楽演奏のボランティアや地域ボランティアの方との交流の機会も多くもち、さまざまな方々の支援を受けることでより豊かな生活となっています。介護人材の確保など厳しい状況が続きますが、地域に根ざした施設として、利用者様に満足いただける施設として継続していきたいと考えます。

